

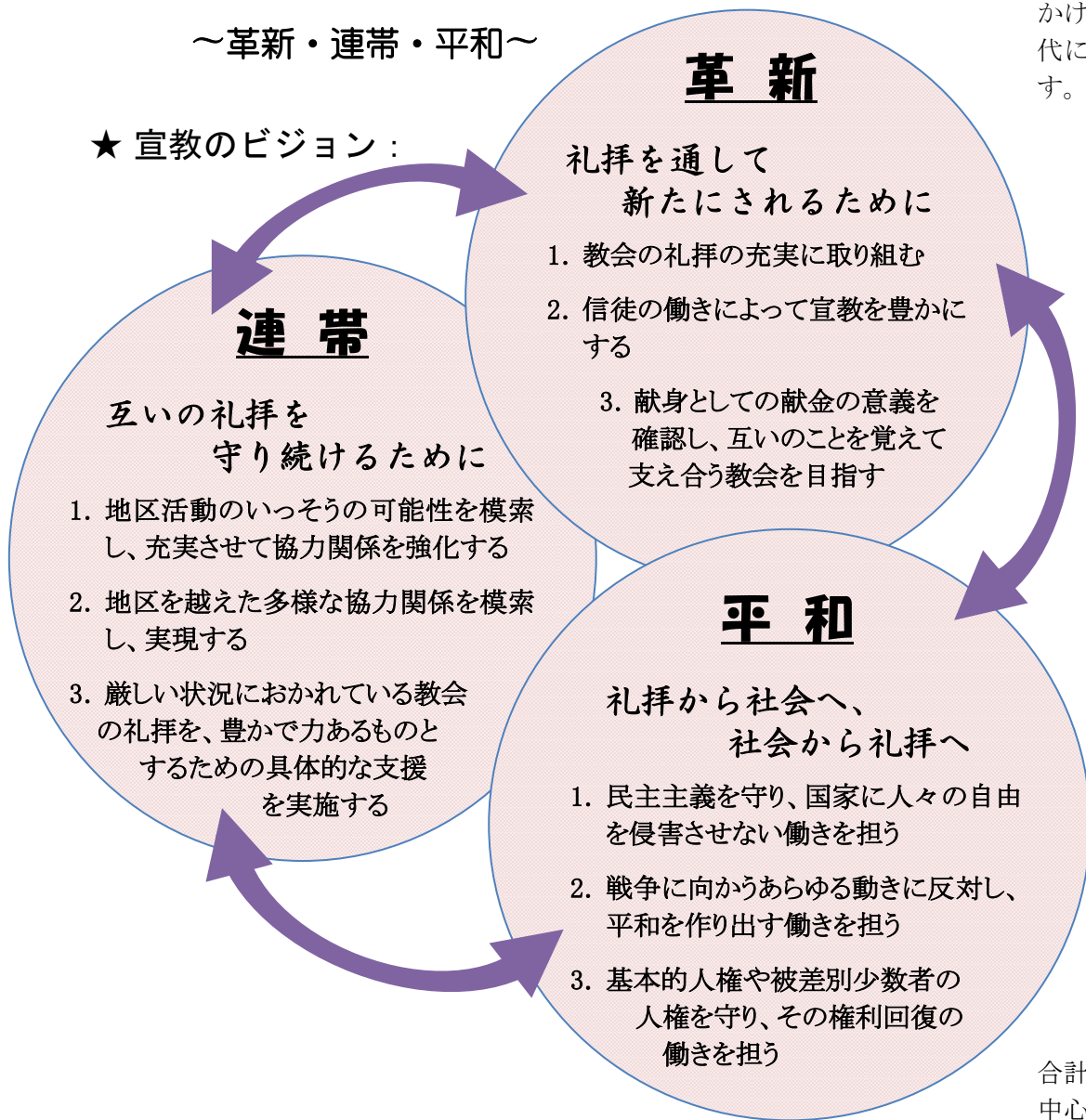
北海教区 第四次長期宣教計画

★わたしたちのミッション：

「礼拝の喜びに生きる神の民」

～革新・連帯・平和～

★ 宣教のビジョン：



第四次長期宣教計画についての解説

宣教計画全体について

新しい宣教計画を策定するために前提として考えたのは、前の長期宣教計画を維持発展させるようなかたちでは有効なものにはならないだろうということです。

なぜなら、教会を取り巻く状況が、前長期宣教計画策定時とは著しく変化してきたからです。例えば、前長期宣教計画の策定時には、北海道の人口も維持されていました。けれどもその後、北海道に急速な過疎化と高齢化、人口減少が進行してきています。

そのような状況の中で、教会だけが右肩上がりの発想に基づく宣教活動計画を継続することはほとんど不可能ですし、そのような計画は「絵に描いた餅」になってしまうと思われるからです。

しかしながら、社会が縮小傾向にあるからといって、自動的に教会

が縮小するとは限らないことも事実です。むしろ教会に託されている神からの宣教の使命を考えるならば、社会が縮小傾向にあるからこそ教会は活動を豊かにしていかなければなりません。宣教は小さくされたものに対する神の愛の証であるからです。

そこで、新しい宣教計画では、縮小する社会に向かって力強く働きかける教会の姿を目指すものとなりました。そして、それこそがこの時代に北海教区に与えられている神からのミッションだと考えたのです。

従来の宣教計画は、「神の宣教」というビジョンに基づく、広がりを持ったすばらしいものでしたが、一方で新しく北海教区に加わった人たちには理解が得られにくいという指摘がありました。そこで、新しい宣教計画では、北海教区が、何を託されており、何を目指しているのかをわかりやすく具体的に示していこうと考えました。そのことで、より多くの人たちと一緒に北海教区の形成を行い、共に教会形成をしていきたいと考えたからです。

そして、その具体的な提示に基づいて短い期間で評価と総括をしながら、次の歩みを検討していける構造にしました。急激な情勢変化の中にあっても、それに対応して力強く宣教を進めることのできる教区形成を行っていききたいと考えたからです。

1. 期間について

長期宣教計画の期間を10年としましたが、このことについて、流動する社会情勢の中で5年先を展望することさえ不可能なのだから、10年では長すぎではないかという意見もありました。しかし協議を進めていく中で、状況が不確かであればあるほど、逆に北海教区宣教計画は長期である必要があり、その安定性が教区活動の安定性を守り、各個教会の働きを支えるという結論に至り、新しい宣教計画も10年の期間を提案しています。

けれども変動が激しい10年になるという予想のもとに、10年を3期に分けて、1期目4年、2期目3年、3期目3年、合計3期10年の計画として提案します。それぞれの期に、宣教部を中心に評価と総括を行って、必要なアクションを行っていくような構造をとりました。漫然と今まで行っていたことを継続するのではなく、実践に対する評価と展望を短期に行うことで、有効で機動力に富む教区活動を行いたいと考えています。

特に、平和の項目は、数年前では考えられないような危機的な情勢を迎えているといわざるを得ません。これからもどのような事態が起こるか予想することも困難ですが、平和部門において課題を整理し、方向性を見据えながら、私たちのミッションとして、平和を実現する取り組みを続け、その働きを共に支えていきたいと願います。

2. わたしたちのミッションについて

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそあなたがたのなすべき礼拝です。」

(ローマの信徒への手紙 12章 1節)

「礼拝の喜びに生きる神の民」という標語は、「宣教の総合化」という北海教区の長年の標語を新たに言い換えようと試みたものです。また、この10年の北海教区の最重要課題が、すべての教会が礼拝を守ることであるという認識に基づいています。それは人口減と高齢化の中で、礼拝を守ることが困難になる教会が増えていく中で、すべての教会が礼拝を守ることが、宣教の第一歩だと考えるからです。

ただ、ご注意いただきたいのは、このミッションが意味しているのが、今まで通りの礼拝だけをしていれば良いのだということではないという点です。この厳しい時代の中で、礼拝を神のいのちと力にあふれるものに革新したいという思いが込められているのです。礼拝を革新するということは、教会の有り様を革新することでもあります。

礼拝は、「人々がそこに招かれて神のいのちを受け、分かち合うところ」であり、礼拝は、「主にある家族としてたがいに覚えあい、つながっていることを確認する場」であり、また、礼拝は、「互いのいのちと暮らしに関わる課題を分かち合い、共にその課題のある社会に派遣されていく時」です。今までの礼拝にとどまるのではなく、礼拝を革新することにおいて、招かれ、支え合い、派遣されていくことを実感できる「いのちと力にあふれた礼拝」が、北海教区のすべての教会で守られることを目指していきます。

もちろん、教会の働きは礼拝だけではないでしょう。けれども、教会の働きの中心が礼拝であることは間違いありませんし、教会が行うすべてのことは、礼拝の新しい形であり、もしくは礼拝との深い関わりの中で行われているのです。

縮小する社会にあって、豊かな宣教活動を展開するというミッションは、礼拝の革新を通して教会とそれに関わる人たちが新しくされ、より深い連帯を保ちながら、平和の実現に取り組む教区、教会となることだという思いでこのミッションの言葉が編まれました。

第三次宣教計画において、宣教計画を3つの領域、すなわち「革新、連帯、平和」という部門を作り担ってきました。これらは北海教区の30年にわたる実践に基づく言葉ですので、大切にしたいという思いと、一方で新しく北海教区にきた教師たちにはなかなか理解しづらいものであるとの指摘があり、新しい人を加えていくためには、新しい言葉を考えるべきだという意見もありました。しかし、これまでの歴史を尊重しその基本姿勢を継承することを明示するためにミッションに副題として「革新・連帯・平和」を加えました。

3. 宣教のビジョンについて

わたしたちのミッションを具体化するための構想がビジョンです。この案では、礼拝ということばにこだわりながら、「礼拝を通して新たにされるために——革新」、「互いの礼拝を守り続けるために——連帯」、「礼拝から社会へ、社会から礼拝へ——平和」としました。このビジョンに基づいて活動計画が提案されていくのですが、ビジョンに書かれている以外のことはしないということではありません。これまで北海教区が行ってきた豊かな活動がありますので、その活動の中で、その年度に行っていくものを総会に提案し、それを行っていくこととなります。従来の活動を機械的に継続するのではなく、ビジョンに基づいて与えられた人的、財的資源を有効に用いて活動することになります。

北海教区 第四次長期宣教計画

★ 期間 2014年4月～2024年3月

第1期 2014(年度)～2017
第2期 2018～2020
第3期 2021～2023

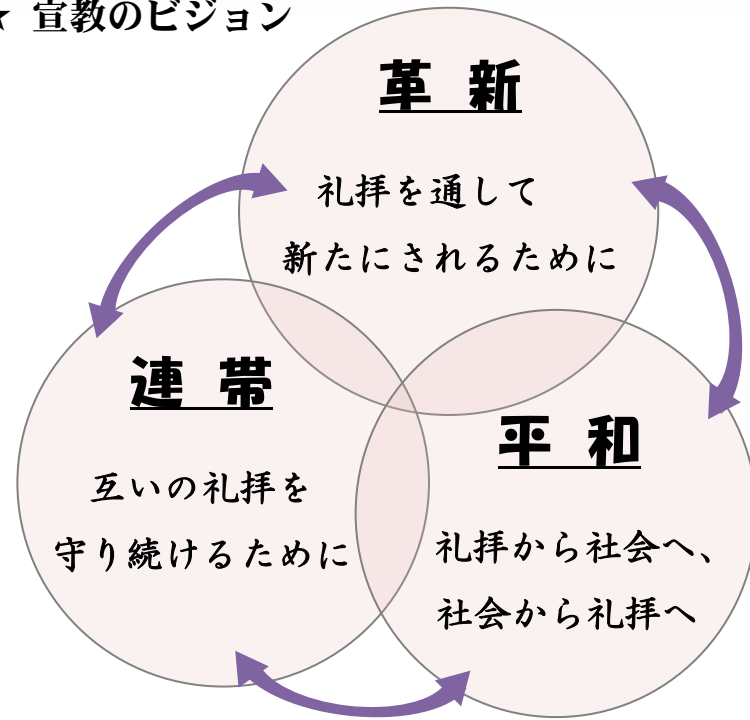
★ わたしたちのミッション

「礼拝の喜びに生きる神の民」

～革新・連帯・平和～



★ 宣教のビジョン



日本キリスト教団 北海教区
060-0807 札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャンセンター 3階
tel : (011)716-5334 fax : (011)757-6271
E-Mail : kanji@hokkai-net.jp

発行:2016年3月1日 北海教区宣教研究委員会

